

「中越」被災・十日町の池谷集落

交流重ねあす自立式

東京のNPO ボランティア終了

過疎化が進む十日町市池谷集落の活性化を支援する東京のNPO法人「JEN(ジェン)」は26日、東京都渋谷区の国際センターに住民を招き、「自立式」を開く。2004年の中越地震以来支援してきたが、池谷集落が都市住民との交流を積極的に進めるなど集落発展の基盤ができたとして、ボランティア派遣を終了したことの節目とする。

写真＝池谷集落で、JENとフェデックス社がした稲刈り作業(10月2日、十日町市中条)

危機脱して 住民を招待

池谷集落は市街地から北東へ10キロほど離れた山間地にあり、7世帯17人が暮らす。中越地震では棚田の7割が崩壊するなど大きな被害を受け、廃村の危機に立たされた。JENは世界各地の紛争地や被災地にボランティアを派遣する団体。中越地震での緊急支援をきっかけに池谷集落とのかわりが始まった。農作業や除雪などの体験プログラムを月1回のペースで開催し、毎年、



社会人や学生ら約150人を派遣。集落支援に前向きな企業・団体を紹介し、首都圏での物産販売にも協力した。支援の輪はJEN以外にも拡大。個人のリピーターや、社会貢献などと

ボランティアへの参加をきっかけに十日町市の

「地域おこし協力隊」に心算した多田朋孔さん(32)が家族3人で移住。農業研修などで滞在する若者も増え、集落に少しずつ活気が戻ってきた。支援の終了について、JENの木山啓子事務局長は「一人・カネ・情報がうまく回る基盤が

できた」と説明。池谷集落の住民でつくる「地域おこし実行委員会」の山本浩史会長(59)は「JENは集落に人が訪れるきっかけをつくってくれた。人とのつながりを大事にし、小さな集落のモデルとなるようがんばりたい」と語った。

大口購入者への的絞りに 生産者懸命のPR

農産物 展示会

柏崎

柏崎刈羽地域の生産者が、スーパー、飲食店、ホテルといった大口購入者に自慢の農産物・加工品を売り込む「柏崎地域農産物・農産加工品展示会」がこのほど、柏崎市のワークプラザ柏崎で開かれた。22人の出展者が持ち時間1分で逸品を紹介、独自の農法や開発したての加工品などをアピールした。



県柏崎地域振興局の主催。地元農産物や加工品を料理素材などに使う実需者に、生産者が直接アピール、理解を深めてもらうと同時に、意見や要望を受けることで次の生産や特産品開発につながるのが目的だ。会では、農家や生産組織の担当者らが、集まった約40の業者を前に